

第23回 教師のための実践マップスキル講座 夏季1日講座 横浜大会に参加して

横須賀市立高坂小学校 満安 あずさ

3年生の担任になって初めて社会科を教えることになりました。社会科の指導で、一番頭を悩ませたのは地図の活用法です。3年生では初めて地図を習い、地図を活用しながら地域や市について学びますが、有効的な

地図の活用、使い方に頭を悩ませていました。

そこで、このマップスキル講座で勉強したいと考えたのです。

私がマップスキル講座で学んだことは、何よりも、私たち自身が地図そのものの楽しみ方を知ることの大切さです。

特に、音楽科での地図の活用には大きく驚き、新鮮に感じました。今回の講義では滝廉太郎の「花」から楽曲の風景や作品の理解を深めるために地図を活用するということを学びました。楽曲の教材研究では、今まで地図を活用することなど思いつきませんでした。曲が作られた当時の地図を広げながら歌詞を味わったり、古い地図と新しい地図を比べて、歴史や文化に関する秘密を発見したりできるような授業をしたいと思いました。

そして、安全マップの講義で、次山先生が教えてくださった「思い出しながら描く」ということの重要性を感じました。写真ではその場をただ撮ることに満足してしまいがちですが、思い出して描くことで、細

部まで捉えようとする子どもの姿が見られるとのことでした。

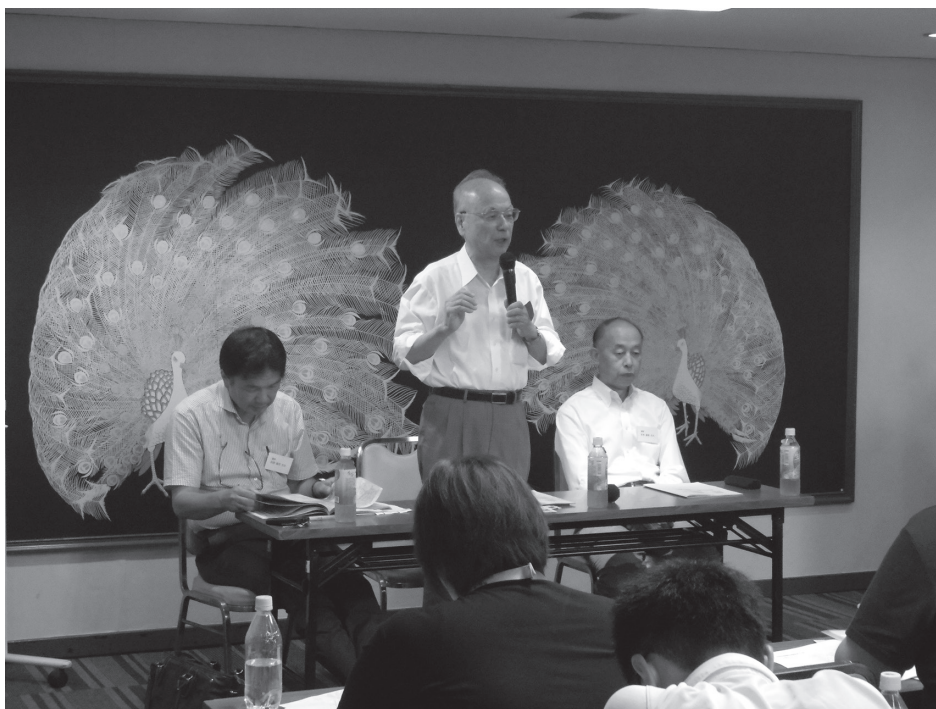
私も講義で必死に思い出しながら学校周辺の地図を描き、全体で発表する時は、それぞれの視点に違いが出て、模写や写真だけでは見つけることが出来なかった視点に気付くことが出来ました。

この「思い出して描く」ということを、地図だけでなく調べ学習などにも活用しました。クラスでは魚市場の見学後、レポートを記入しましたが、一口に魚市場と言っても、マグロそのものや、マグロを卸す人、海やマグロ漁の船などと描く視点が児童によって異なり、各々がオリジナルのレポートを記入することが出来ました。

また、地図の作成の講義では、特定の視点から地図を作成する際、ドット分布や色分けなどの工夫された地図を見て、子どもたちと色々な手法で地図を作成していきたいと感じました。

このマップスキル講座を通して、社会科を初めて学ぶ3年生の子どもたちにとって、地図が興味あるものとなり、さらに地図を活用できるようになるための素地を養うことがとても大切だと感じました。

地図を見せても、まだ3年生ということもあり、よく分からないことばかりのようです。少しずつ地図への



写真① マップスキル大会で会長挨拶を行う次山信男先生(中央)

抵抗を減らして、子どもたちが地図をもっと身近に感じることが出来ればいいなと思っています。

そのためにクラスでは、朝のニュースのコーナーで外国の話題にふれながら、その場所を地図で紹介し

たり、大好きな給食では、食べ物の産地を進んで地図で見つけたりさせています。このような機会を通して、私も子どもも、もっと地図を楽しむような経験をたくさんしていきたいと思っています。

地域安全マップ作りを通して 地理教育を防犯に生かす

平塚市立崇善小学校 鎮西 真裕美

社会科の授業において、地図は重要な教材である。読み取ったり、調べたことを表したり、それを使って説明したり、子どもたちが地図を活動の中に位置づけたりして学習している姿を見ることは、社会科の醍醐味である。地図の活用は多岐にわたり、様々な分野でその特性を発揮する。今回マップスキル講座に参加したきっかけは、安全マップと地図活用についてもっと知識や技術を得たいと思ったからである。防犯教育に地図を生かす方法や、地理教育の可能性を見いだすと共に、日頃の授業に役立つ実践を学ぶことができて大変有意義な講座となった。

さて、9年前に栃木県今市市（現日光市）で小学校1年生の女兒が殺害された事件の犯人が、今年逮捕された。この事件をきっかけに、全国の学校で通学路の

安全確保や地域安全マップの作成などの防犯対策が以前にも増して論じられるようになった。しかし神戸の事件に見るように、まだこのような事件は後を絶たない。「子ども見守る街 手探り」「通学路の安全対策『親の負担』課題」という新聞の記事を見た。通学路は教師も親の目も届きづらく、各地の学校で通学路に潜む危険から子どもたちをいかに守るか、今も模索が続いている。

私が勤める学校にも、その9年前の事件をきっかけに、地域のボランティアが立ち上がった。「そうぜんパトロール」という児童の下校時に通学路に立って安全を見守る地域の人々で構成される組織である。「9年前の事件をきっかけに、自分の住む地域の子どもたちに同じ目に遭ってはほしくないと思い、9年間ずっとこの場所に立ち続けている。」というパトロールを発足当時から続けているお年寄りの話を聞いた。普段何気なく立っているパトロールの方に目を向けてほしい。自分たちの住む地域の危険な場所と安全な場所を調べ、危険から身を守れるような子になってほしいという思いから、地域安全マップを作る授業を構想した。

子どもたちは下校時に会うパトロールの人にインタビューをしたり、危険な場所や安全な場所の写真を撮ったりして資料を集め、地図に表した。その地図を元に、パトロールの人と地域の安全について意見を交流した。子どもたちは、地域を見つめ、よりよくしていこうと考えることで一層この地域に愛着を感じるようになった。

マップスキル講座で田部先生が提案なさっていた「学校で地域安全マップはどのようにつくられているか」の資料がとても参考になった。地理意識の育成が空間認知能力を高め、防犯対策の柱である危険回避能力を身に付けるこ



写真② ドットマップを説明する田部俊充先生

とにつながることは納得したし、目黒区の小学校の実践事例からは、自分の授業をよりよくするための具体的なヒントをたくさん得た。地理教育が防犯に貢献できる点は多くあることを広めると共に、今後も学校で安全マップの作成を通して子どもたちや地域の人々の防犯意識を高め、安全・安心な国づくりに役立てていきたい。



写真③ パトロールの人にインタビューする子どもたち(左) 子どもたちが作成した地域安全マップ(右)

**第23回 教師のための実践マップスキル講座
夏季1日講座 横浜大会に参加して**

川崎市立長尾小学校 山本 憲広

私の趣味は、ツーリングとサイクリングです。地図を片手に行ったことのないところへ行くのがとても好きです。しかし一つだけ悩みがあります。それは、地図を活用することの楽しさ、有用性をどのように子ども

たちに伝えればよいか、今一つつかめていないことです。地図の潜在能力を十分に引き出せていない自分にもどかしささえ感じていました。そんな時、偶然にも横浜で「実践マップスキル講座」が開催されることを知り、『実践』という言葉に惹かれ、参加することにしました。

当日は、3名の先生方に地図の活用について教えていただきました。内容が充実していることはもちろんのことですが、先生方の講義されているときの表情がとても素敵でした。根っからの地図好き、社会科好きということが伝わってきて、私もなんだかとても楽しくなってきました。

次山先生のお話で最も印象に残っているのは、まちの発展について地図を通して考えたことです。小さな集落以外は一面に田畑が広がるまちに鉄道が開通し、鉄道を挟んでその集落の反対側に団地ができれば、このまちはこの後どのように発展していくかについて、地図に書き込みながら考えていきました。これまで私は、地図とはその土地の情報を提供してくれるものであり、それに基づいて自分がどのように行動すればよいか考える助けとなるものだ、と思っていました。自分で地図に書き込んでまちを作っていくという考えは持ち合わせていませんでした。自分が不動産会社の社員になったような気分でした。

岩本先生のお話で最も印象に残っているのは、開港当時の絵図や版画から読み取った横浜の歴史を地



写真④ 会場周辺を巡検し、説明する岩本廣美先生(中央)

図に表し、その地図を年代ごとに並べると、まちがどのように変化、発展してきたかがよくわかるということです。さらに、わずか数メートルの標高のちがいがから、開港時の人々がどのような生活を送っていたのかについても読み取りました。資料を読み取ってわかったことを地図に表し、それを並べることでさらに読み取れることがある、地図に表すことで見えなかったものがさらに見えるようになる、まさに活用でした。

田部先生のお話で最も印象に残っているのは、量を地図に表すことで、特徴が見えてくるということです。例えば人口です。5000万人ごとに1つのドットを白

地図に押します。そうすると各国の人口がパッと見てわかります。これを、例えば日本国内の月ごとのキャベツ生産量に応用すると、気候を生かした農業が目に見えてわかると思います。

今回の講座で私が感じたのは、地図を使って見える化することで、その社会的事象の特徴に迫ることができる、それこそが地図の活用だ、ということです。地図の潜在能力を改めて感じるとともに、授業で統計的資料や歴史的資料を活用するときに、地図に表すという学習活動を取り入れることで、子どもたちに地図を身近に感じてもらえるようにしようと思います。



写真⑤ 出席者に修了証を手渡す次山会長（中央）

今年は「青色 LED」の発明で日本人 3 名がノーベル賞を受賞、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録といった明るい話題があった一方、広島の高雨、御嶽山噴火のような自然災害の多い年でもありました。来る平成 27 年が皆様にとってよりよい年でありますようお願い申し上げます。

〒 101 - 0051

東京都千代田区神田神保町 2 丁目 5 番地 神保町センタービル 5 階

一般財団法人 地図情報センター内 実践マップスキル研究会事務局

Tel 03 - 3262 - 0846 Fax 03 - 3234 - 0872 E メール : mapskill@chizujoho.jp.org

ホームページ : http://chizujoho.jp.org/05_mapskill/index.html